

フランス

オルレアン市



宇都宮市の姉妹都市として3番目に提携したのは、フランスのオルレアン市です。オルレアン市からアプローチがあり、1989年にオルレアン市、宇都宮市にてそれぞれ調印式を行い姉妹都市が誕生しました。



NPO 法人宇都宮市国際交流協会
Utsunomiya City International Association

オルレアン市と姉妹都市になるまで

1989年5月7日、
オルレアン市と姉妹都市を提携しました！

1988年4月、当時、通商産業省の先導により推進されていた「テクノポリス（産学住が一体となった先端技術産業都市）」の実現に取り組んでいた宇都宮市をオルレアン市の経済開発協会の3名が調査のため訪れたことが発端でした。

当時のオルレアン市は、首都パリに近い中世の城郭都市から脱皮して、交通の便の良い内陸の中核都市との提携により、新しい先端産業都市を目指していたのです。

この時の調査では、日本のテクノポリスを目指していた3都市を巡り、宇都宮市に白羽の矢が向けられ、同年5月にオルレアン市長から書簡により姉妹都市提携の申し入れがあり、その後オルレアン市の調査団が来宇し、提携計画書が提出されました。

宇都宮市としては、フランスのオルレアン市は地理的にも遠く、英語圏でなく、フランス語が公用語であること等を理由に難色を示す声もありましたが、オルレアン市へ提携調査団を派遣して現況調査を行い、市議会でも独自に調査団を派遣する等の検討の結果、東京から北へ約120kmに位置する宇都宮、パリから南へ約120kmに位置するオルレアンと地理的に類似性もあり、15世紀の百年戦争のおり、ジャンヌ・ダルクが救った都市として日本でも知られていること等から、提携の機運が高まっていたのです。

1989年に宇都宮市長以下25名の代表団がオルレアン市を訪問し、5月7日に迎賓館グロロ邸において盟約書に両市長がサインして調印式が行われました。同年8月、オルレアン市からジャン・ピエール・スール市長を団長とする19名の市民訪問団が来宇し、市議会本会議場において調印式が行われ、オルレアン市との姉妹都市が正式に提携されました。

2009年7月にはピレ副市長を団長とする訪問団が来宇し、姉妹都市提携20周年を記念して再調印式が行われました。再調印式では、両市間の交流を強化し、絆を深めていくことが改めて確認されました。

ジャンヌ・ダルク祭

1412年、ジャンヌ・ダルクは現在のフランス東部のドンレミで農夫の娘として生まれました。百年戦争中、1429年にジャンヌは神の啓示を受けてフランス軍に従軍し、イングランド軍に包囲されていたオルレアンを最初に奪還し、後のフランス王シャルル7世の戴冠に大きく貢献しました。しかし、オルレアンと対立していたブルゴーニュ公国軍に捕えられ、異端の罪で19歳の時に火刑に処せられてしまいました。

ジャンヌは生前敬虔なカトリック信者であったことから、ジャンヌの死後、ローマ教皇カリストゥス3世の命により復権裁判が行われ、ジャンヌの無実と殉教が認められました。以後、フランスを救った守護聖人として今日まで讃えられています。

オルレアン市民は、ジャンヌの功績を称え感謝の気持ちを込めて、市内の各所にジャンヌの像を建立し、毎年5月7日～8日にジャンヌ・ダルク祭を開催してきました。

現在は、毎年オルレアン市民から選ばれるミス・ジャンヌ・ダルクが往時をしのぶ白馬にまたがった甲冑姿で先導し、民族衣装で着飾ったパレードや当時の風俗を再現したイベントが行われ、フランス全土から多くの観光客が訪れる華やかな祭典となっています。



オルレアン市のあらし

歴史

オルレアン市は、15 世紀の百年戦争でイギリスに侵略されていたフランスを救ったジャンヌ・ダルクが最初に解放した都市として知られていますが、その歴史は古く紀元前までさかのぼります。

紀元前 25 年、オルレアンはジュリアス・シーザーによって征服され破壊されましたが、ローマ皇帝アウレリアヌスによって再建され、その時の呼称の「アウレリアヌスの都市 (Cité d'Aurélien)」が変化して、オルレアン (Orléans) となったと言われています。

以後、中世初期のメロヴィング朝時代にはオルレアン王国の首都となり、オルレアン家からルイ 12 世やフランソワ 1 世がフランス王位を継承しています。

百年戦争以後、ロワール川に架かる橋を拠点として、その流域が戦略的要所となっていました。周辺の農業が活性化してオルレアンに多くの富をもたらし、パリやルーアンと共に中世フランスで最も豊かな都市であったといわれています。

後のルネッサンス時代には、代々の王や大邸宅主によって、オルレアン周辺にシャンボール城やブロア城、シュノンソー城等が築かれました。

代々のオルレアン公は王の兄弟やいとこであり、オルレアン公国は当時のフランスの諸公国の中でも最も大きかったと言われていますが、1870 年の普仏戦争では再び戦乱に巻き込まれ、第 2 次世界大戦ではナチス軍に占領され、アメリカ空軍の空爆により甚大な被害を受けました。

中世からの大都市であったオルレアン市は、大戦終了後、最初に復興された都市と言われていますが、現在では人口約 25 万人のフランスの平均的な都市となっています。

地理と気候

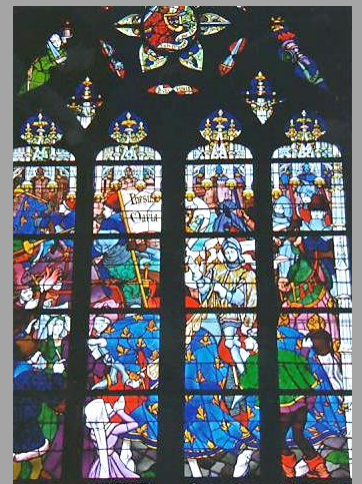
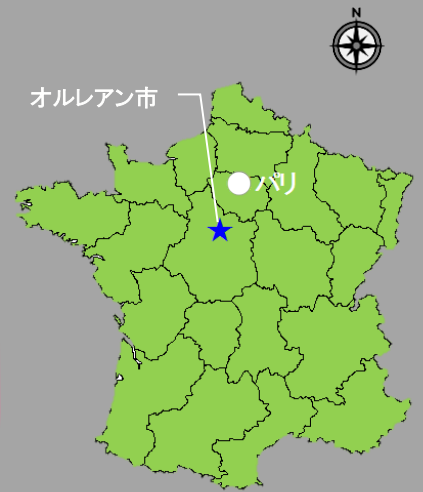
オルレアン市は、日本の 1.5 倍の面積を持つフランスの中央部に位置するサントル地域圏ロワレ県の県庁所在地で、首都パリから南へ約 120 km に位置しています。



市内を東から西へ流れるロワール川は、古くは多くの大型船が航行していました。現在は、鉄道と道路で結ばれた交通の要衝地であり、世界遺産に登録され「フランスの庭園」とも称されているロワール渓谷の玄関口でもあり、美しい風景に恵まれています。

気候は温帯性で、夏はフランス南部と比べると気温は低く、昼間は約 20°C まで上昇しますが、湿気が低いためカラッと感じます。

冬の寒さは厳しいですが、雪が降ることはほとんどありません。



概要

オルレアン市の中心部にあるマルトロワ広場には、ジャンヌ・ダルクの騎馬像があり、街のシンボルとなっています。また、17世紀に再建されたサント・クロワ大聖堂周辺には、16世紀にルネッサンス様式で建設され当時の代官の邸宅であったグロロ邸(旧市庁舎)などの歴史的建造物が立ち並んでいます。市内を南北(A線)と東西(B線)に走るトラム(路面電車)が市民の足として親しまれ、中世の街並みに溶け込んだ美しい景観を見せています。

また、フランスで一番長いロワール川が市内をゆったりと流れ、川沿いの道は市民の散歩道として、多くの人々に親しまれています。

近年、オルレアンは中部フランスの中核都市として工業団地を造成し、日本企業も進出するなど商工業都市としても発展しています。

古いものを大切に、新しいものを開発しながら、それらをうまく調和させている街といえるでしょう。

市政

市長は市議会議員 55 名による互選で選ばれ、任期は 6 年です。

2015 年 7 月には、セルジュ・グルアル(Serge Grouard)前市長が退任され、新しくオリヴィエ・カレ(Olivier Carré)市長が就任しました。

オルレアン市では、フランス国内外の都市と姉妹都市・協力協定を結び、それぞれ特色ある交流を展開しています。

観光

オルレアン市内の至るところでジャンヌ・ダルクの功績を称える銅像を目にすることができます。中でも、1429 年 4 月 29 日から 5 月 9 日に滞在していたといわれるジャンヌ・ダルクの家は人気があります。元の建物は空爆により破壊され、1965 年に再建されました。現在は博物館として、彼女の生涯を描いた立体模型や復元した中世の甲冑や刀剣、肖像画などが展示されています。

また、ディエゴ・ベラスケスなどの作品を所蔵したオルレアン美術館も一見の価値があります。

大聖堂を中心とした古都の街並みやロワール川の川岸を散策したり、トラムに乗ってオルレアン大学や花がいっぱいの広大なラ・スールス・フラワーパークを訪れば、新たなオルレアンの魅力を発見できるでしょう。

- ① サント・クロワ大聖堂 ② グロロ邸 ③ 市役所 ④ 美術館 ⑤ マルトロワ広場
⑥ ジャンヌ・ダルクの家 ⑦ ラ・スールス・フラワーパーク ⑧ オルレアン大学
— トラム

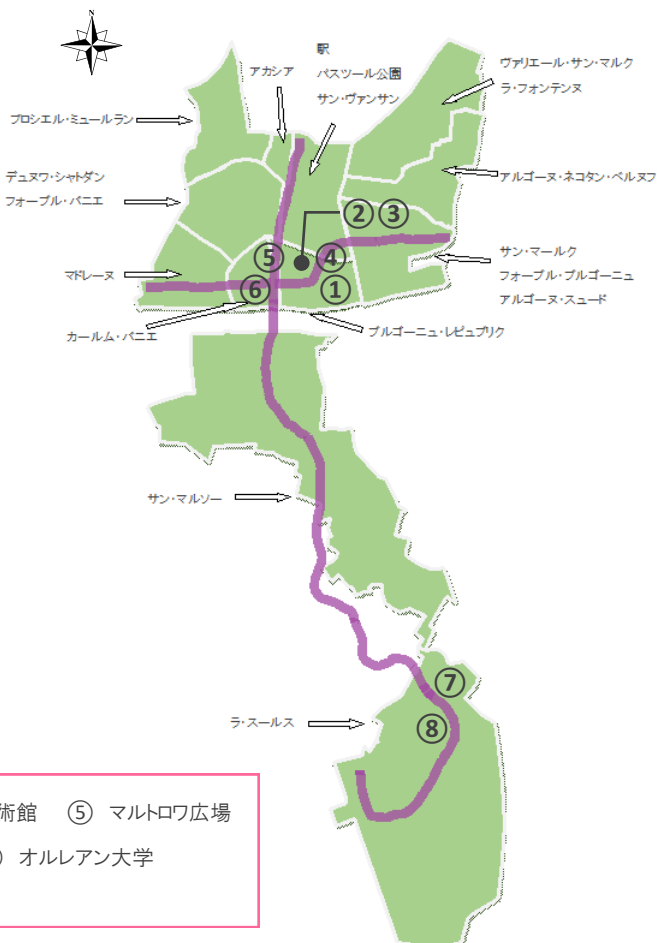


オルレアン豆知識

人口	約 12 万人
面積	約 28 km ²
位置	東経 1 度 54 分 北緯 47 度 54 分
気候	温帯性気候
気温	夏季 18°C、冬季 5°C ※ 平均気温
時差	-8 時間(3 月~10 月は-7 時間)
公用語	フランス語
通貨	ユーロ (1 ユーロ=約 135 円)

姉妹都市

- 1 ダンディー (スコットランド) 1946 年
- 2 ミュンスター (ドイツ) 1980 年
- 3 クリスチャンサン (ノルウェー) 1973 年
- 4 ウイチタ (アメリカ) 1973 年
- 5 タラゴナ (スペイン) 1978 年
- 6 サン・フルール (フランス) 1986 年
- 7 宇都宮 (日本) 1989 年
- 8 クラフク (ポーランド) 1992 年
- 9 パラクー (ペナン) 1993 年
- 10 ルゴジ (ルーマニア) 1994 年



オルレアン市との交流

1989年の姉妹都市提携以来行われてきた交流事業のあらましを紹介します。

市民訪問団の派遣

1990年、5月に開催される「ジャンヌ・ダルク祭」への参加とオルレアン市民との交流を目的に、宇都宮市民を対象に公募された第1回オルレアン市への市民訪問団が派遣されました。当初は宇都宮市の主催でしたが、その後発足した宇都宮市オルレアン協会に引き継がれ、以後隔年ごとに、ジャンヌ・ダルク祭に参加する市民訪問団の派遣が実施されています。

学生および市民訪問団の受け入れ

オルレアン市内の高校生・大学生の受け入れを行っています。訪問団一行は、宇都宮でホームステイしながら、学校体験や日本文化体験、日光の世界遺産を見学する等、両市民にとって意義ある交流となっています。

近年は、オルレアン日本協会(Le Japon à Orléans)により、宇都宮でホームステイをしながら、企業見学や日本文化を体験するプログラムも企画され、活発な交流が行われています。



その他、女性の海外セミナーや文化交流等、継続的に行われてきたものではありませんが、議会議員、大学教授など教育関係、医師会関係、芸術文化関係者の受け入れや、オルレアン大学留学などの個人的な交流も随時行われています。

姉妹都市提携当初から心配されたフランス語圏という壁は、交流を進める中で世界共通の言語である英語を通して、両市民にとっても身近に感じられるようになってきたのではないのでしょうか。



青少年訪問団の派遣

オルレアン市内でのホームステイを通して、国際的な感覚を身につけた青少年の育成を目指し、宇都宮市内の青少年を公募により派遣するもので、1991年以来現在まで実施されています。

派遣生は、事前研修で現地の状況やホームステイについて学習し、出発から帰国まで同行引率者なしで実施されています。海外旅行を通してリーダーを養成する場として、有意義な研修となっています。



インターンシップ生の受け入れ

3か月から1年間、オルレアンの大学生が宇都宮でホームステイしながら、企業で体験就業するインターンシップ生の受け入れを行っています。

1998年8月から1か月間、UCIAとレオン自動機においてインターンシップ生を受け入れたことが始まりでした。

オルレアンの大学生に限らず、年々、日本に対する関心は高まり、今後の両市の相互理解と友好親善のために有意義な事業となっています。





宇都宮市の姉妹文化友好都市シリーズⅢ
フランス オルレアン市

発行日 2015年9月30日


発行者  NPO 法人宇都宮市国際交流協会
宇都宮市姉妹文化友好都市パンフレット作成実行委員会
〒320-0026 宇都宮市馬場通り4-1-1
うつのみや表参道スクエア5階(宇都宮市国際交流プラザ内)
Tel 028-616-1870 Fax 028-616-1871
Email ucia@ucia.or.jp <http://www.ucia.or.jp/>

写真 ©Jean Puyo, Jérôme Grelet, Mairie d'Orléans